

技術ノート KGTN 201511101

現象

[GGH4.X-5.X/ExPack] 拡張パックの GGHealthCheck2 とはどんなツールなのか？

説明

ロードバランサのヘルスチェック機能 (TCP/IP レベル) で GG のポート 491 を監視した場合、GG は接続要求を検出した時点で様々なリソースを確保します (注:これは一斉ログオン等の高負荷な処理をさばくための仕様です)。しかし、ロードバランサは GG のプロトコルを喋りませんので、コネクションが切断されるまで、それらのリソースが確保され続けます。一斉ログオン時に、複数台のロードバランサがヘルスチェック機能 (TCP/IP レベル) を行うと、それがパフォーマンスに影響を与える可能性があります。GGHealthCheck2 は、このような問題を解決するために作成しました。

GGHealthCheck2 は、定期的に GG サーバー稼働状況を (GG のプロトコルを通して) チェックし、その状況を記録します。ロードバランサのヘルスチェック機能 (TCP/IP レベル) 等により、GGHealthCheck2 の待ち受けポートにアクセスがあると、以下のようなウエブドキュメントを返します。2行目が GG サーバーの最新の稼働状況を示しており、UP が正常を意味し、DOWN が異常を意味します。



設定ファイル

設定ファイル GGHealthCheck2.ini の default セクションで、以下のパラメタを設定して下さい。

設定項目	説明
logLevel	ログの出力レベル, 通常は1を指定し, 障害時は4を指定
logd	ログファイルを作成するフォルダ(省略可)
aps	APSのポート番号(既定値は491)
interval	APS監視の間隔の秒数(既定値は30)
timeout	APS監視のタイムアウトの秒数(既定値は30)
port	GGHealthCheck2 の待ち受けポートの番号(既定値は8491)
shutdownSleep	shutdown() 実行までの遅延設定(既定値で可)
closeSleep	closesocket() 実行までの遅延設定(既定値で可)

導入方法

インストーラー（GGHealthCheck2-Setup.exe）でのインストールが完了した後、スタートメニューの「GGHealthCheck2 → 3) フォルダを参照」を選択し、表示されたフォルダに拡張パックのライセンスファイルをコピーして下さい。次にスタートメニューの「GGHealthCheck2 → 1) サービスを開始」を選択し、GGHealthCheck2 のサービスを開始して下さい。



Last reviewed: May 17, 2017

Status: DRAFT

Ref: NONE

Copyright © 2015-2016 kitASP Corporation